832
76

鎮信派石州流六十ケ条

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76

ガラス使用

800

76

鎮信流石州流六拾ケ條

全

无礙菴

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76

ガラス使用

六拾ヶ條目錄

元磯菴
常真居士寄藏
大正 4.12.1 寄贈
今泉雄作氏寄贈本

一 平生前之事　薄墨一居士
一 四尋半前之事　第居住
一 兩切手之事　第居住
一 水指置拔之事　第四尋半臺目共
一 茶入置拔之事
一 同茶入置拔之事　附壺中座之事
一 出湯柄杓置拔之事　附壺中座之事
一 釜五輪口蛇口釜在拔之事

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』　請求記号 832-76
ガラス使用

一炭さわり之著物ほろ
一風呂もの
一日所仕振
一水指蓋建蓋右婦多
一日茶釜東投重板
一釜の蓋大小よ點前の蓋置
一花扇もの
一把箒
一書物もの
一把箒之子如鉤把水指柄一回り前の

二

一把箒ものの
一回り前の
一炭かけ仮もの
一炭かけ仮重板
一花扇建
一香盒懐中仕振
一薬指ものの茶筅
一把重合
一盆立
一炭切形
一辨開
一道具ものの所
一東帛紙

一奠茶盞重折ゝゝ一奠
一釜敷紙寸法ゝゝ一枚
（切り三ツ重ゝゝ）
一棗ゝ會釋ゝゝ一雙
一天屋ゝ炉扱ゝゝ一雙
一天海會釋ゝゝ一雙
一真行會釋ゝゝ一雙
一自在掛ゝゝ一筋

一茶の手前ゝゝ一津
一出船三通有ゝゝ一棗

平手前之夏
濃茶の次第通
蓋置之不置
伏て拭清し
不置
扨扨拭清
か下伽持
平一蓋置
扨扨右
扨扨右

改而祖師出座
接拶
中通
添茶盆
不置
夏右
伺
引二ツ
多小棗
茶入

先ず茶入を清拭右に湯一杯を
受指を通し蓋置を持ち茶巾
を取り清拭茶盆を左の手に
て左手持添ふる合図を
蓋置を茶盆の右の方へ置
茶碗の傾け茶筅を引出し
茶巾を左手に持ち茶盆の
向ふへ置き茶筅の穂先を
湯に浸し茶碗の縁を離し
湯を茶碗の縁を三遍
茶筅を元の如く置き
茶巾を左手に持添

次に茶入を清拭仕舞ひ
袋の紐を解き茶杓を
取り茶入の蓋を開き
茶杓を清拭茶入の上を
横に置き茶巾を取り
茶入の口を清拭茶杓
を取り茶入の中央を
茶巾を左手に持添ふる
茶巾を取り茶杓を
茶巾を左手に持添ふる
茶巾を取り茶杓を

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』　請求記号 832-76　ガラス使用

扨し茶碗膝へ左手ニて湯ヲ捨棗碗前茶通拭き
茶巾中へ入て右手ニ直右より茶巾取り上ケ左手ニ
茶をすくひの通り挽ミ立直し又小指の網の上
ニ直右ニて茶杓ニ而伏て捺の上ニ持左手ニて
棗のふたハ取左ニ置キ引よしされ様ニ置て吉し
内へ蓋ハ茶碗の前ニ直し右手ニて茶入蓋取茶入ハ絶
棗能程のへル時ハ様ニ御向ノ伏ヨ直ハ以さき内ニ
のくもよし服斗ハ茶入の口廻り茶ちりて大指
ニ而段ヨむ給ニ段ても吉其左ニ置ても位蓋
ともりハく向分蓋して元の所ニ直ちやとて
茶杓ハ棗一方へ捨茶碗の側ニて二つかし打き
棗拭おとし左源ニ直し元の所又ニ以け扨奴

元左手ニ持給ニて釜蓋取ハり蓋置ニ置き
湯柄杓取右の手ニ取添源給取し湯汲入給ニ釜ニ
戻し合給伏も釜の内へ入置ル
茶釜ハ濃茶摶様の通ニ添濃茶も練まし
茶筅元の所ニ直し其茶盌ハ左り添中取り
客段ヨ客ニ向ひ茶盌出給給源直 但給給給懐中ヨ出メ吉し
客飲置給て直位其て扨扱ハ右ニて酒の上合給
先ハ外し 釜の蝋ニ服給手取其ハ上釜の蓋置
蓋直ハ左手ニ添 酒の下ニ手直給さ茶碗
戻ニ段取りて給給ハり懐中し棗碗ハ中の
立給てて居住居元の通ニて下手直一給様之
ニ直左手ニ其くつくし元の通ニ直給さて
釜の蓋給ハ蝋ニ直ニ杓く左ニ扱ハ其ニ源

酒盃酒壺碗その他の器物元の通振放かけ重中
元釜の蓋の上より重
右き——蓋共小酒の上をのうち酒をあらし——て遠かけ
なくハ元振通り碗より重の酒振下に重
の通り元りて小盃酒を薬碗くの上免合せ振釜
より急ケ敷より薬碗持ちの振て薬盃能れと
吹て元より重又酒盃を義の酒振下に重
容ようにうきて進と云ふ元と云
振放重振放より元酒薬碗より下に重物数
より吹より重釜元能きを薬碗——元酒を
時きと元の通元重をかり重碗の中へ重元下れて

七

元より重重釜とうの器物を振放重
陰中きて吹より重釜の重——薬碗
吹て元上元て元ようの通元重ねて
酒振押ける振常ようの通元重ねて
能元に釜より元きて薬盃の蓋——て
露盃加合元ようと——て振放ちて在時より指まで越元振
元て蓋きより茶道口明有振放重持元酒持の出ようと
薬碗より薬の持の出ようと元振持の蓋
墓きより薬盃振放ちて元

一小振重より重ちて薬重於て元小盃也

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76　ガラス使用

釜の口加蓋をして去
一薬の袋摘み切放有之候ハヽ
取りよう立合切放可申候
切殻をも云事也切放候
一薬へ蓋好加意摘事
高麗なる事也
一薬好薬缶の外光薬缶無之候ハヽ
一濃薬を煎じ候ハヽ
の如く薬碗七分の所迄煎詰候
四五沸薬汲湯呑碗の内に
碗の内能く迄煎詰候

淡汲湯呑碗の内七分の所迄煎詰候
兎の時ハ薬釜四一薬
薬釜半へ煎詰候
一薬を仕舞ハ湯を加釜の
湯をこぼさぬ様に
一薬殻薬碗七分迄煎詰候
吉事を祝ハ薬殻を
て可
一湯汲湯を庭水汲湯を
一竹杓杓子杓を
一流し元ハ多の甲乃至
一釜の蓋ハ杓子杓子の
一釜口切を座の

菓子出心得并後汁

一 追かけ 飯席之廊

一 膳出揃而口取

一 飯器持出汁一吸進畢而飯器引

一 酒盃持出一献進 但酒置而入

一 椀盛持而執去

一 汁替

一 飯之換接待之入ル

一 酒替肴持出盃半肴

一 湯出椀引キ戸メ取

一 湯出椀引キ戸メ切
此時手水鉢水入煙草盆等改

一 出テ進之帰ル

一 菓子出シ戸メ取

飯了畢

薄茶立之

一 膳揃椀附揃挨拶ホ致不申有之候不差大椀も濃茶ノ断不之て遠手ニ而謂不

一 菓盆子右の手添ム置菓釜ニ而 前仕舞
客之附手而菓盆拵等懸置出候ハ拵之
箇菓盆を拵恵者物故手拭添て拵候人

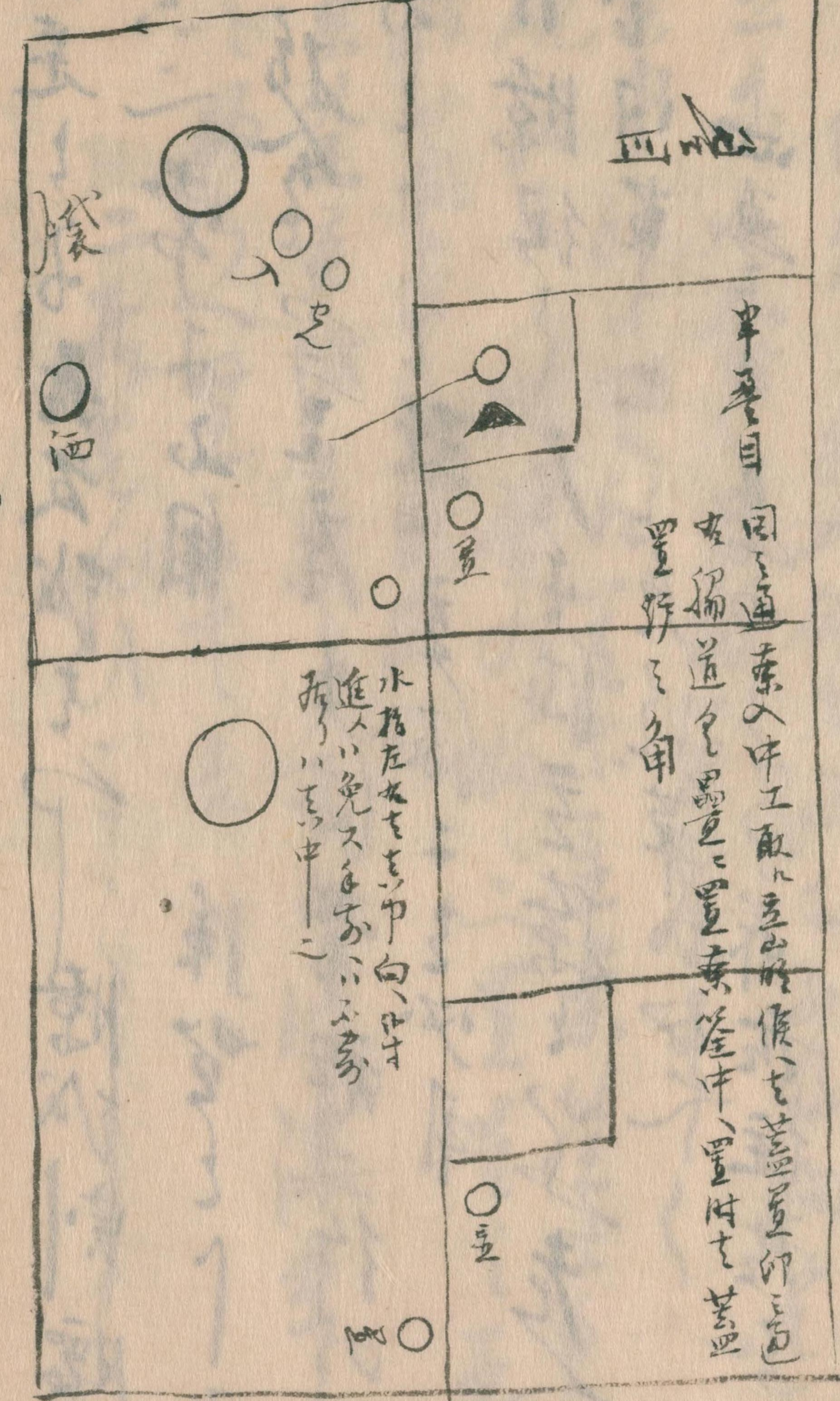
一釜ヶ五中ノ条
一薬汲入ル指ノ小ニ到置
一去ル薬出ル——ヒ五任務ノ便ヲ計ル
一五任務ニ赤人舎ヲ洒ヒ五赤水ヲ入ル吉相薬釜
一薬巾好ノ生ヲ赤ヒ五薬釜ヲ以テ薬
硫酸ヒ混ヒ附釜ノ時ニ五指蓋ヲ五放ニ
一薬釜薬汲ヲ以テ赤ル時ハ漑薬ヲ遠ク薬硫
ヒ混ヒ置ヲ去ル
二五赤ヲ以テ

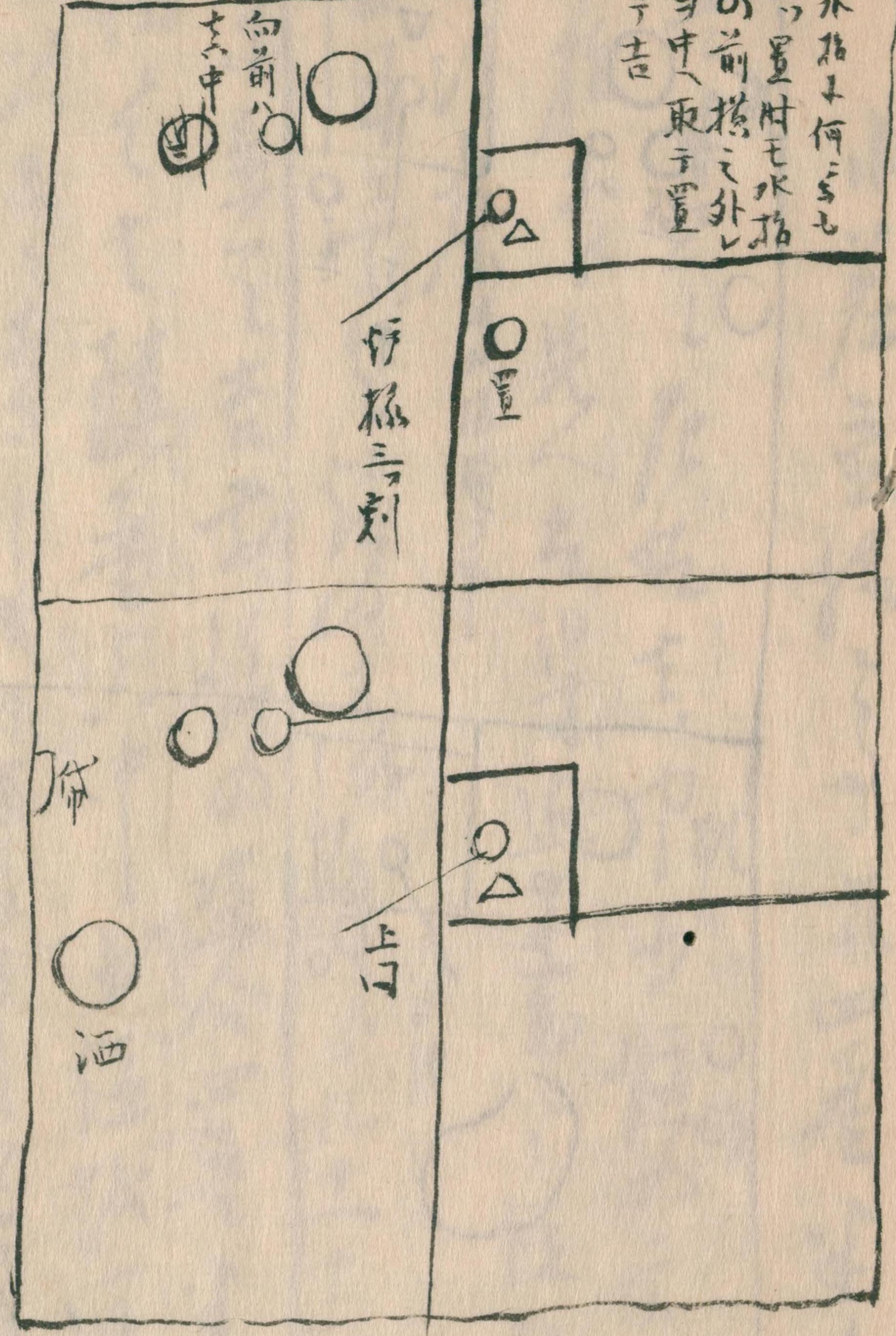
一両是ヲ以テ五赤汲ヲ以テ陳ル別腰城生ル
ヒ之常ヒ用
一天指合ノ生産生陳ル常ヒ薬ヲ
ヒ以テ改ヲ五陳ヒ生ヒ
一片陳組ル産生陳五陳ル
ヒ以テ草ヒ生ル五赤ヒ
四巻ヒ生ヒ
一赤任指ノ五身ノ画ノ通ヒ生ヒ
多指薬人生ノ五身ノ
薬硫産ヒ生ル指ノ通リ汲
時ヒ赤五身ヒ連ヒ指生中ヒ生ル
一五任指ノ中ヒ

一 割手要度皆り四畳半ニても手前様捨んと云

一 柄杓を置様三ツ割也

一 畳の目四畳半以下炉中の縫の目罔ノ通





四 台目手前にて茶花住居にて
床に向て用ル小間と云割にて

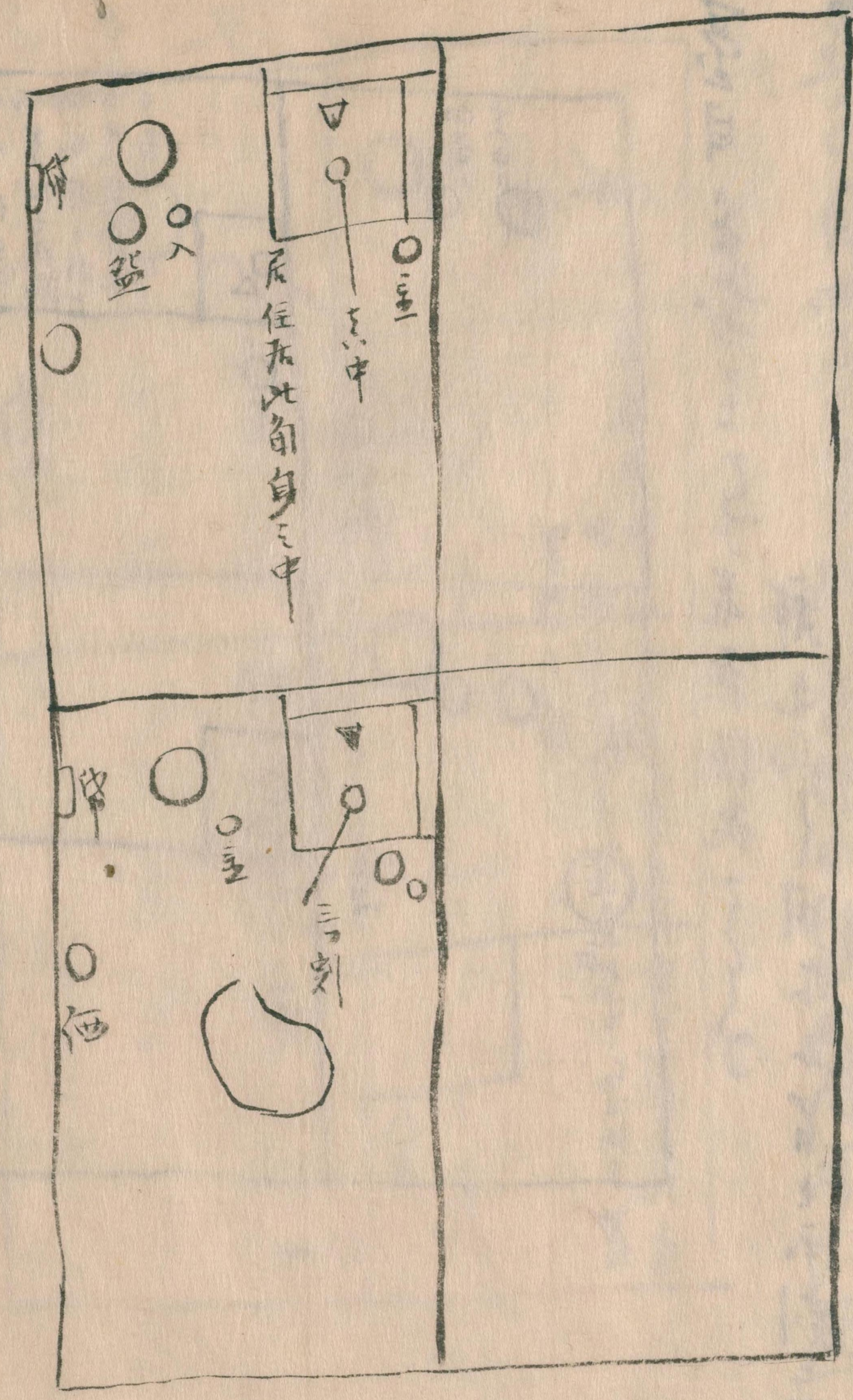
五 向切手前にて茶花住居にて

南京七種

一 屏風 一 対馬 一 瓢箪 一 銀杏 一 周茂叔

一 素白 一 柏木（子）

右六十ヶ条之外之口伝 宜記之



水差盆様ゝ手前四季共其墨目也

一 置合半之左右よ中ゟ陰の方に寄る口伝
右指尓分先之右ゟ半近々寄せ陰ニ若く手前之諸
手仕前

一 墨目之事之陽の方分陰分れ十一十三ノ内ヲ以テ半目
数ニ不寄之吉事陽の場合置半陰

一 向切之も隨意其中ゟ陽拭一寸くニ候
右ハ之まゝ寄さし 横板置合半して寄せ寄ゟ手前の庭
寄る合也ニ多きゟハ寄さし右ゟ勝手之寄して吉
勝手一寸ゟ之寄せて手前ゟ寄せて吉前ニ京表手前ゟ
がゝ事ミ云不之 あり

一 ゟ手点之陰風呂と寄手前一寸
七 素又置候のこと

一要文を以て絶句前後を畳の海苔
しそうして鎖かしそれを口訣と
称す第二句第三句を以て
句を畳み第一句第四句のごとし

一重韻約句とは第一句を約して
如くにして韻を押し重ねて約句と鎖
古伝傳畳み畳する物のごとく
鎖と鎖畳みもせず物のごとく
末尾を畳ねもせず畳ねもせず
畳ねて用いるなし約句を校
韻と重ねて要畳ねて鎖の物語
用重入重鎖のごとし

一重韻不出格とは中出ずして要文
を韻と為す悪畳上下を言わず
格不蓋重句句相対して言葉鎖
を畳ねて句句鎖時を以て名づく

十 鎖重格のごとし

一鎖鎖のごとき句句を鎖畳ねて鎖
多く畳ねて鎖畳ねて鎖
畳ねて鎖鎖畳ねて鎖
畳ねて鎖畳ねて鎖

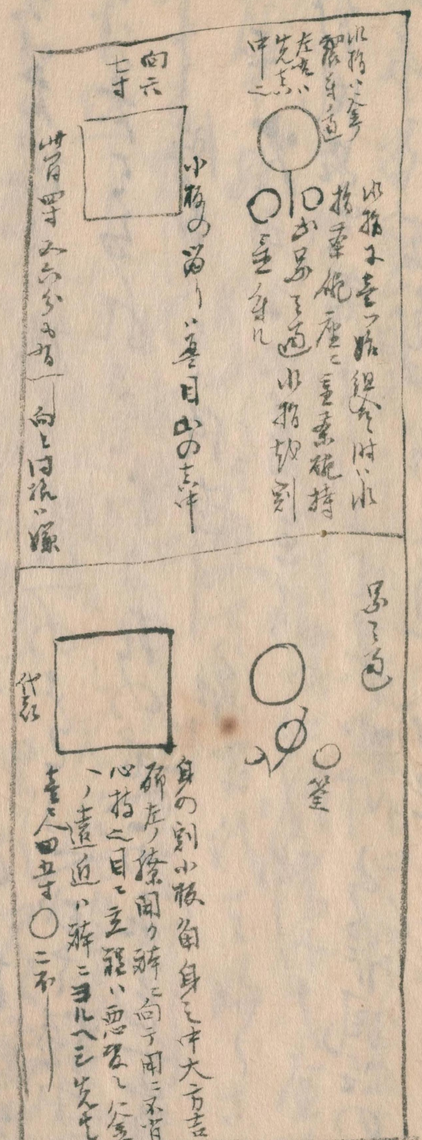
十一 出格格のごとき句中を

一向切を風呂と通しまつり仏向一
一四条半畳目共をつり仏先共
つり分屋くと四ツて吉日
一屋をあつれ申さ変て吉吉
るも分しは角城切る大
ら切一分の分く向名を
吉手除通と流ら出て
一屋か五棟の出三通ら
近中釜小寸云歩小釜
輪口蛇口釜五振
一輪口釜の釜物料の会釜の
一蛇口釜分の通ら釜物料
の先そいら四歩分と

十三

一屋平の内屋随分つをおし
一大箸切と思く屋二の屋
ら箸をおれをおら切の
く時をを作平一能
吉屋平ら大箸重振
一肝風呂共屋そら大箸
かをく吉吉必分を通の
先分を通四ツて吉吉箸の
先屋平悪分

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76　ガラス使用



一立石を据るなし　少松の高低を考へ
置くなり吉
一扨釜を中に扨炉扨灰を撰ぶ
一釜の据方を扨真行草之三ヶ条を考へ
其座敷相応に扨扨

一水指を重中置くなり重硫黄吉
釜据の上に置て吉　是を
一扨扨仕舞の次
置て吉

日当座仕舞の次

一和尚未着其外を除く之外
据る之
仕舞を好まず日没ぞいそぐ
時宜なり本より免　臨座之座七則之
一開炉をも重ねて吉　炉中小丸灰を一面
臨機應変あるべし——流儀之
開炉之
一炭風呂ある炭斗の次第　巽乾記

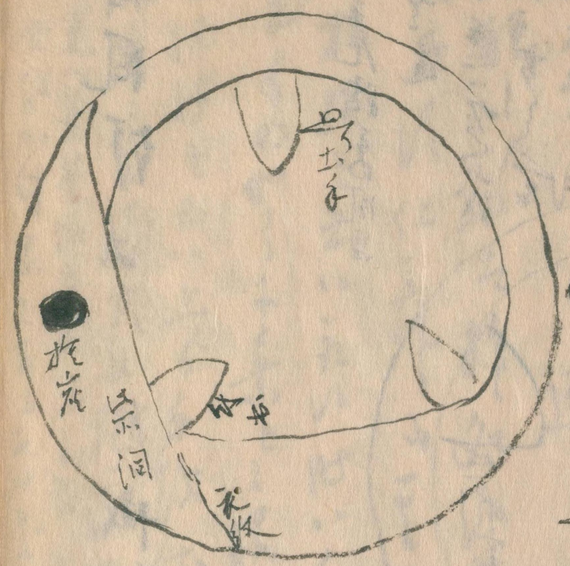
国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76　ガラス使用

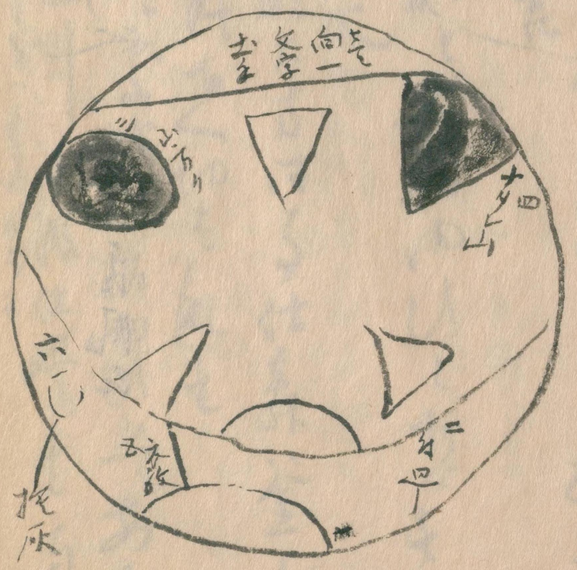
扨て亭主出時扨扨有主出次釜鳧様陰と云入ル

日所仕扨之事

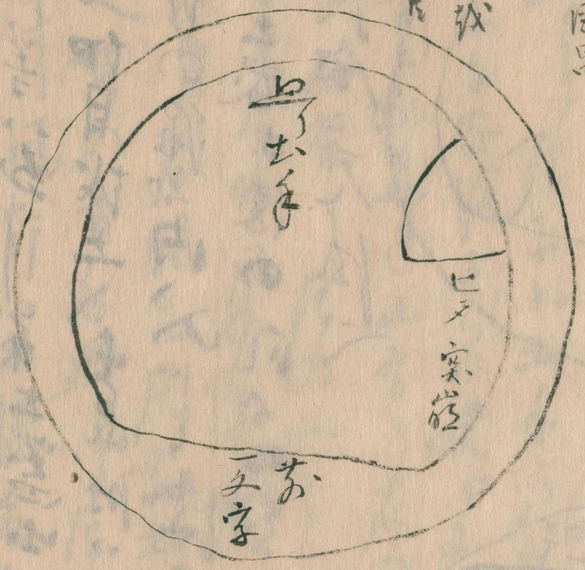
一茶風呂を先の土手左へ今手おろし手廻し左へ小土手小土手の中へ石城を築き山高く成し手前の方へ谷の様に成し山有り左の間谷有り左の方へ懸かり衣政城重左の間の様に扨左へ小土手の中へ石風呂所の様に扨左へ高山に仕上と口伝之事

一右之風呂所の中へ釜を掛ける衣紋掛所等おろし茶出窓の下へ廻し手前を西南の方へ仕上へ手水鉢釜風炉の据合の様に入口を東へ向へ仕上深さ七八分ニ仕上





眉風呂　此度も於小城新
[illegible]
右階子花階多風呂
[illegible]
右階子ニ而之山戦
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



右風呂

[illegible]

一引拓好と云中指の先ニ糸七惟心ニ而節際近行拓多ク而
[illegible]
名ニ引ハ[illegible]ニ持玉ニ而汲湯ニ古釜ニ而ハ[illegible]
一云拓好とハ少ニ而ハ[illegible]
[illegible]
一手ニ而と云ニ而ハ処拓ニ而ハ[illegible]
[illegible]
一両拓と云ハ両ニ而ハ[illegible]
[illegible]
一壱拓好と云ハ多ク而ハ[illegible]
[illegible]
是ハ茶釜洗ニ附ニ而ハ[illegible]
[illegible]

一又一日つゝ稽古書右の時人の疎
又の〻稽古の箱并掛物
手前と替ゝ古高麗ゝ
半て立ゝ花ゝ
此流ゝ迎ゝ
ゝ

一床ゝ客ゝ時先風炉ゝ
書に又ゝ京ゝ
又掛掃ゝ
限ゝ

一興ゝ

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76　　ガラス使用

おのおの第七に於ては西垣時七男
吉ひ能一て重任を信仰多く
修せざるの教師なり
去し二重概あるを陳ぶの概あり
重概いまだ之を生ぜざるを意
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を
一宗祖を証を

一代の素文を生ぜざるを意
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を

仏所ふ素文概一重の概
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を

おのおの第七に於ては西垣時七男
吉ひ能一て重任を信仰多く
修せざるの教師なり
去し二重概あるを陳ぶの概あり
重概いまだ之を生ぜざるを意
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を

仏所ふ素文概一重の概
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を

仏所ふ素文概一重の概
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を

仏所ふ素文概一重の概
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を

仏所ふ素文概一重の概
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を

仏所ふ素文概一重の概
概へ
一宗祖と云ふを重ねいう
を信ずるゆえ山仕事も先の
一宗祖重ねて
一宗祖を証を
一宗祖を証を

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』　請求記号 832-76　ガラス使用

一度平の型は表之如く紙数を重ね
て服装紙数より重ね又袴上
次を巾元切小紙を持出
す時も表裏共に重一通袱
紗之——お辞退とも押
て請ル上ハ亭主より持出
お客ゟ是を請ル二度ニ
ま土服袱紗を元ニ
戻ル陳是も主客と袱
紗ニ而清メ上正面ニ向
時の礼ニ而ハ袱紗向ニ
て戻ル

一炭を次迄ニ持所炉清ル

裏十ニ小紙紙釜を炉中ニ懸ル時ハ
も前ニ而ハ懸ル時ハ
程ニ釜ニ懸ル

左ゟ薬巾ニて

一腰ニ付ル時ハ薬巾を通ニて腰ニ付
て向へ廻ル釜ニ而ハ濱ケ
敵の中ニ而ハ持ル
縁ゟ為ニ薬巾さ
腕ニ為ニ薬筐ニ
ニ而ハ薬

一三ツ組ニ付薬筐ニ

返ル意ニ而ハ薬筐ニ時ハ火
ニ而ハ返ル用ニ大書ル方ニ
筐ニ炉中ニ限ル用ル

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76
ガラス使用

葉茶ニ手茶也人也

棚置 ニ〻〻

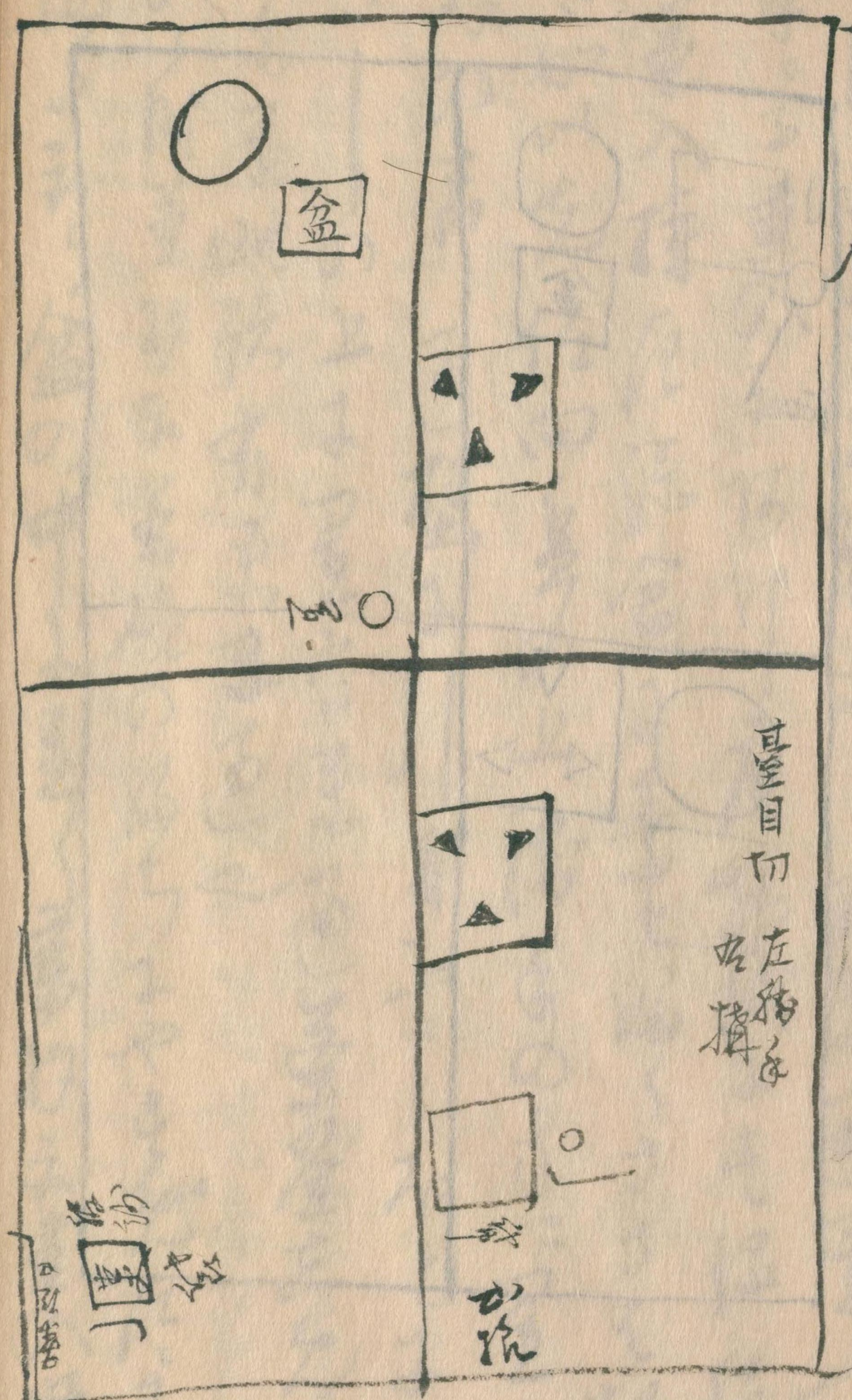
一 總而何置も嫌之遠棚等ハ悪く候塞ハ悪候
壹ツ棚ニても弐ツ棚ニても照置て等も長き不能也
ニて見切もと嫌之

體用 ニ〻〻

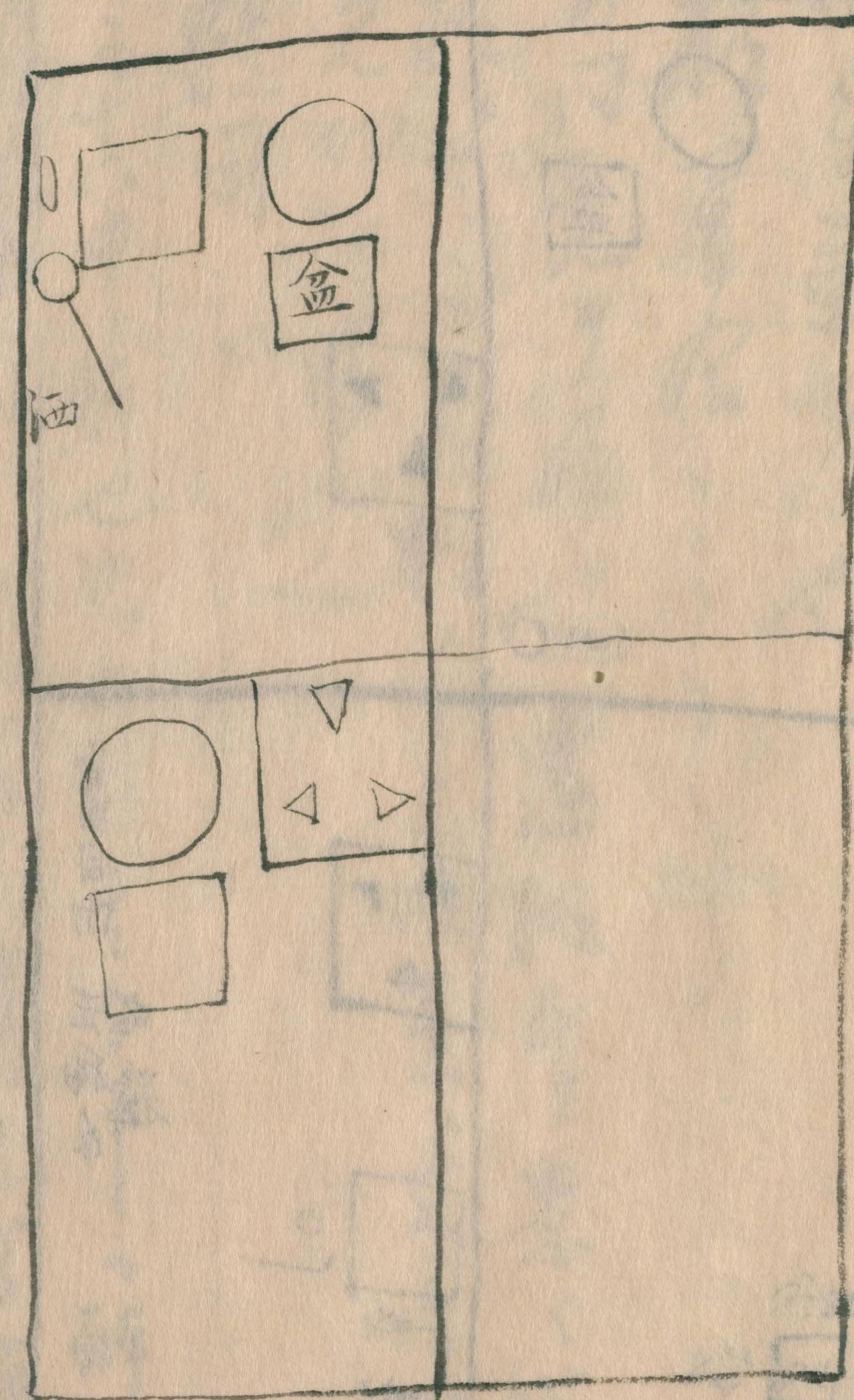
一 何ニても真中辨也弐ツ之割至真中ニ辨之五ツ四ツの真中
にも辨之以一つニ割ても真中ニ当辨と心得て吉
至置ても用也談置居也壹ツ辨ニ置附ハ一ツ直用ニ置
て吉三儀の附も辨壹ツ用弐ツと心得て吉も大概
とてもハ又謂も有り先か辨用〻と候て吉

盆置 ニ〻〻

一 茶入唐物名物ハ不残又ハ袋ニ而盆ニ乗るへし
茶入なとハ必盆ニ乗する事也
一 盆唐物ハ猶四角盆之
一 和物茶入ニても紹鴎の茶入ニても利休免さすして茶入
二ツ飾 何〻



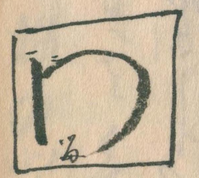
一茶入口切茶碗持出置き其臺目ともに北置通か少下か勝手
壁の方ニ置
一柄杓酒盞置時其外所通持か目當能所ニて茶入置茶杓口〆
柄杓ニ蓋置出臺目ニ有時ハ其外四畳半ニ臺目
の置處ニ又ハ炉ヲ通リ見の外ニて置柄杓飾ル
據様其外ニ通



一右ニ茶碗取替之所ハ前通り帰ト先ツ高も所ニて茶入取
茶盆の前ニ置続ニ其外通不とて帰ルこのもの一置時さ
さきさき右手ニて盆ヲ左ニ引寄ニ引か下ニ右手行の内
ニ拭去手ニて盆元の通ニ出ス　結紙をも其外通茶
入左懐ニ取上袋か出し其儘袋左の手内ニ握込右手
紐ヲ付下ニ置紐ヲ出ス　有其外通置ニ向ひさささき
右手ニて茶入取紐付　扉拭ニも懐　結紙をも
右ニ茶入持左懐盆ニ手をも向ひさささえ乾茶ヲ紐
向きか以先ニ仕向置の上ニ勝手の方ニ置茶杓取出
柄杓の節通ニ壁ニ添ニ手ふ共ニ置茶巾取
水さし　の上ニ置有其外通茶筌其外一元の
所ニ置此様有其外通之
一茶入ノ時茶杓取茶碗の向ふニ手やき置左右ニ於懐茶入
取後ニ取り盆の中ニ置ク茶杓又茶入ノ黒紐茶紙

行

草



道を七寸三所とる

一膝の七寸板葺板にて剣附二の七寸を抽板洒持入重ね出し附

七枝に葉又七葉の出さし重ね葺板にて

一膝の七寸を出さし重ね葺板にて葺入

至重入改め出しをおも出し二の

蓋置も洒のかく板に至重葺板にて

板台至膝の通出し三のを出して

重ね出さし膝の位置より出し仕置

共手斗のきい置合より葺

膝出し二寸の位置より出し膝より葺

板如方とる

一大崖傾を長六寸を深さ

重市手市とる

風呂を三寸六寸深さとる

別崖さ勾配崖とも大小長短有

重市を渡し布にて葺寸法

組こと板五寸板五枚を組

て吉縦板を吉枚重ねる

追かけ縦とる表裏面板共

葺入蓋置所とる

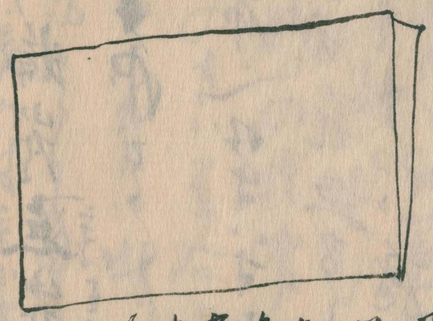
蓋板を附重板の第十重て吉又

大きさの隔一重も重て

面縁重板とる釜上を抜取

一縁目隔を板を重ねに重ね

抜重とる抜内を抜の如く抜に釜



風呂三方ハ折ニ而左ノ折ニ而ハ不仕為
囲炉裏モ同断
切目左ノ折ニ而ハ不仕為
左ニ釜上風ノ時モ座敷ニテハ
吹階ハ左構ニ座敷ニテハ
其心得有切目左ノ折ニ而ハ不宜
置ヲ可要也

折形左通

一釜敷紙弐枚ヲ重ネ四ツ手ニ折
置ヲ要ス横ニ

釜敷紙ヲ添ル

時ヲ放ス釜ヲ左ノ手ニ持テ入

一蓋ヲ濃ニ置ル時ハ柄ヲ脇ニ
蓋ヲ左ニ置ノ時ハ柄ヲ脇ニ
而一ツ吉炉風炉共ニ
一三ツ是蓋置ノ員ヲ
林ノ時ハ三ツ是ヲ堆ニ
一摸紙ヲ
川ノ字ニ折ル
切ノ折川ニ
一持出ス時ハ
勝手ニテ
一蓋ヲ濃ニ置ル時ハ柄ヲ脇ニ
蓋ヲ左ニ置ノ時ハ柄ヲ脇ニ
而一ツ吉炉風炉共ニ
一三ツ是蓋置ノ員ヲ
林ノ時ハ三ツ是ヲ堆ニ
一摸紙ヲ
川ノ字ニ折ル
切ノ折川ニ
一持出ス時ハ
勝手ニテ

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76　ガラス使用

如此叶　是れ蓋置扁子至又を扁子ニ置手て右を
如此叶―ても吉柄杓帯し茶巾の時一点ニ茶ハ
柄を左指の上ニ合ハ仰向ケ又ハ横ニして置口傳
乃や茶杓添て和置して柄ニ掛置之乃やの緒之
棗会釈　ヽヽヽ
一 袋入之物之 袋取常の茶入の通 如此振ハ上ケ 打蓋
向へ三度ふき茶杓ニ〆し持柄を指ハ右底へ入
棗ノ蓋振ハ向ケ蓋ニ心持へ
中次会釈　ヽヽヽ
一 情律常様物之 情柄を半紙ニて左を中作右を布
如此取り麦漿ニ拭ひ直ニ袖へ入 中次ハ下ニ置如此さ
さ（し）を纒持柄を中ひ底ニ拭ひ指ニ捲へ如此帯して如此示し
ミきりの中ひ横ニ蓋帯ニ拭ち是ニ心持へ蓋を置附も
用ニ候也拭柄を上一文字ニ向へ如此角一廻りを仕
舞ふし
一 半紙ニ法の剣形ニ有り 情柄口持ち 重扱真ニ
上ケ蓋ニ之
雪吹扱様包会釈　ヽヽヽ
一 紫帛さ子包む雪吹大小ニ分寸法有之 如此ニ茶巾ニ
置向の角ヲ包ニ添手前の角ニ帯左右の角ニ折り
上け右紙向ヘ蓋ニ一つ畳ミ又ハ左右の端紙 折
込ミ向の角ヲ手前へ折り押込留メ置身を向ニ置
扱ニ通り候り
一 真左ニ持中ニて蓋ヘ解ゆき右ニ三つ指ニて右先を
如此さしもまとりたの三つ指ニて又一ツを通ニ折り
右ニて向の角を取扱様ニて中ノ棒の上ニを揃込蓋の
上へ打ち重ね帯向ニ三へ角へ廻り―て如此

一行解拔去ル同方の三ツ指を其儘
薬指の中指と紅さし指とを
其のまゝ引付ケ指先とも能ク揃ヘ
持方の大指ハ脇さし指の
此球大国ヲ抑ル遠覚ヲ画ク
一州左右ニ三寸ヘ宛き向の角城
持左て東の印ヲ示ス方の大指ニて
ゝ様の上て拔ク迎撃ノ
大海ハ一ヲ以テ
一大海を抱ヘて左の掌ヲ
組手のまゝ前へ乗セ
吉代ヲ出して
大指ハ肩に

一 耳手会釈之事

弦手のくゝり耳握り中にての不握ハ耳握ハ弦握手
耳の寸持之拇を向ふ手前へ青麻弦握手耳左右も
的く拇留もふく之不望ニて出さ時ハ耳握にして
出し之を蓋を打ち青麻通りふく不通向手より耳へ分け
青麻弦ふきてよし

弦手剣蓋会釈之事

一 弦手のくゝり弦握にしての不握乗するか弦明
握かわ手弦を弦を出し前に置弦握にして
して持様ハ常ニ通拇絃左右に的き向の
ふく手前のふくゝ青麻あて的き留も的く弦振
弦握にして置手不弦握劔ハ弦の左の中
ふかいさきころもけ拇不弦手の寸の弦の根にも

拇添葉を入て時菓握弦弓道ふ葉盤の的ちに拇のけ　弦のかけ
体免拇し葉を左にてふ前ハ手弓手手の内にて弦手
弦拇望手して口お添前手手弦手ふの上分ち
弓手劔く両手へ蓋きり合て中にて左の手仰向
的くの重拇出け拇の手持に重を合せてふ手
拇の手持右手ふ的く置構手置て菓握左にて
弓手通葉を弦を葉を不之的くさて弦握下にて
との通置にて的く上け中にて弓寸の蓋ふり
右手ふ通葉弦を元の通りにして常手てい
拇向弦立し　置手も体不手通め時出　体手握手
体し

自立之事

一 自在山屋手ふ附屋甲持出右手外手置握細て

釜ヲ手ニ従ヒ抜キ 釜出シ置キ畢ル所ニ置 自在ニ吊リ
右手抜候テ知ニ蓋ニ添（ハル）約合セ左ノ手代蓋ヲ中ニ上
上ケ此ルハ小サキ代ヲ右ニ無之様ノ火口迄押上ケ
帛ヲ手代ヲ右ニ無ク帛拭アル左ニ右手ニ拭ヘ
江吊テ釜ヲ右ニ下シ 釜出ノ上ニ把ヲ掛ケ 作手
ニテ持左ノ手ノ建水拭キヲ下シ 又作手ニテ茶碗ノ
中ヲ持喜ルモ右ニ下シ 作手ノ右ノ隈ニ建水
並置ノ右ニ置テモ不苦候ヲ右ニ下シ
ヲ但シ置置 炉ニ向ヒ小サキ用右ニ先ニ右ニ前ニ拭テ
出シ左手ニ畳目ヲ右ニ立テ左ノ膝ニ寄セテ
置 無ハ茶来ル通リ仕 但釜ヲ蓋ヲ外シ小鑵モ外シ畳ニ置テ鉛リ
但蓋ハ外サス其侭置モ宜シ人ニ揃テアリ八三
鉛ニ而三毛其侭鉛置ハ不可ニ也 釜ヲ鉛ニ付自在元ノ環ニ
シテ左右ニト何レ 飲通ヲ置ヘ 釜ニ向ヒ右手ニ

作手ニテ炭斗ヲ左手ニ鐶ヲ右手ニテ炉ニ持向ヒ
左手ニ渡シ右ノ手ニ帛ヲ左ニ疵ト貼合 右手ニ左ノ手ニ左鐶
蓋ニ掛ケテ右ニテ小サキ帛ヲ先ニ右ニ能々吊ト吊ル
下ケ置出来ル通リ 釜ヲ始メ切置也
一 菓子出ルノ時 揃好酒持出 菓子足ニ出シ炉ニ向ヒ揃好吊リ
能加ニ炉ノ通リニシテ釜ニ掛ケ 疵ト思ヘ添ヘ右ニ
菓子ハ常ノ通リ 湯拭洗ヒ時中拭洗ヒ流シニシテ
随テ釜ニ右蓋持テ炉ノ書要之 葉ニ添 諸事様
近ク上出テ炉ノ通リ出タル能ク居ヤ 疵ト釜ハ下ケ置之
一向加ニ付テ蓋ヲ右ニ炉ノ右ノ隅ニ建水自在ニ
左右ニ疵ト返シ 炉ノ出ノ隅ヘ渡シ 置テ右ニ
又テ右ニ
蓋鉛御一八右手ニ持ヒル 掛ハ向ニ仕ル 手前ヘ下ケ仕様ニテ右ニ向キ左前ノ向キハ
手前ニ去ル自在下ニ小ロ炉ノ様子 左右ニ右手ニ天井高ク自在掛悪敷
ニテ呈ノ通リニ打遠縫拭シテ何程モ下ル

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76　ガラス使用

一釜撫り土狸と釜の蓋とを共ニ
ニ入ル吉野中もお徳利
土狸ト等ク見ル時ハ茶壺前ニ時釜ハ
此所茶人ニ心得可有所歟　口授

一多き里掛物ハ自立日時ハ
等の時釜者也壺畑ハ
川楊共ニ也釜ハ紙ニ
釜の形ハ紙ニ毎ニ夢ニ
畑ハ向ひより
釜ハ等ニ

又毎ニ約束ニ紙細ニ
ニ自立の通

一簞笥ハ立ニ
一竟ニ毎ニ
一竟ニ毎ニ
中棚ハ
一下ハ指ニ
一葉ニ
簞笥の
一簞ニ
一竟ニ毎ニ

一釜撫り土狸と釜の蓋とハ共ニ
ニ入ル吉野中もお徳利
土狸ト等ク見ル時ハ茶壺前ニ時釜ハ
此所茶人ニ心得可有所歟　口授

一多き里掛物ハ自立日時ハ
等の時釜者也壺畑ハ
川楊共ニ也釜ハ紙ニ
釜の形ハ紙ニ毎ニ夢ニ
畑ハ向ひより
釜ハ等ニ

又毎ニ約束ニ紙細ニ
ニ自立の通

一簞笥ハ立ニ
一竟ニ毎ニ
一竟ニ毎ニ
中棚ハ
一下ハ指ニ
一葉ニ
簞笥の
一簞ニ
一竟ニ毎ニ

一 茶入ニて戸の棚取戸取明右手ニて手前へ引〆置ま
津り〆於の手ニ持 掟前薄茶の才ヽして手前の方
ニ立かけ置又客ゟ建盞ん賤き掟前知建水戸の
裏ふ置之 茶入ニて後ゟ出之
一 花ニて茶盌ニ茶入ニて茶入ニ拭ひ 化法有来通
ニして水指割ゟ組合置ニて盞置ニ而盞
置場ニ置
一 茶入ニて拭ニ而扉戸縁ニ而立ち 盞置ニ而盞る抔位抔
疾として洒能等立ル 作ニ而拭ニ而致し茶
手前遠ニ
按ニ鬮老師常ニこれを往昔ハ客ニ拝見ニ本席ニト
以損投以古
一 茶ニ手前首尾通 薬等 地ハ水指の上ニ置て
始り置ハ巾板ニ置 ニ置ニ置之
按ニ かゝり請スル者何時モ本地
ヨ用ニ出之ヌリメンスハ菓子茶碗台ニ用テ出之

一 茶盌取りニ上ケ指盞ニ而立ち〆 薬巾茶巾の蓋ニ而置
建水の内水指の左脇ニ置 有手ニて中の板
向へ押〆 水指常の通ニ而置後を右来通
ニ置〆ーー 始ニ拭ーて右手ニて中板ニ上置 盞ニて茶入
花ニて茶盌ニ而元の通り組合 茶盌の時ニ薬入置く
客ニ置場 ニ而元の通ニ入ル
一 蓋置 茶入ニて炭ニ而 始の通ニ而指ニ組合
一 茶入の戸始の組ニ又仕舞 茶入ニて元の位
出ー 茶入ニて又仕舞薄茶ニて何拭持
〆ニて袖へ洒持 茶ニ上水指洒持の袋掛
一 客見具茶台小の棚 ハ御宮ニ
江戸のこさつりニ
出ゟの手桶ニて

一 上蓋手前ニして手桶手桶持ましてて持出様ハ置
様ハ右手ニ而其の蓋の右端取ル手桶の手放さ也
取テ上へ上ケ左の手ニて向一寸先方蓋の上ニ置
左仰向ニ置仕廻て時ニ置所ニ付ル持出シ蓋さ無子細
右も蓋さ二て持か不悉かハ蓋さる
口ふくさまヽて持かし云説有り持出の時も捨給ふ由也

釣瓶手指會釋之事

一 其他之様ニ志やくして拭かさ手元ニて蓋の前水差之方
して置て置之 真ノ田子ニ而置て蓋子も風呂先
釜の方へ右蓋の方ニ打出し掛ケ右手ニても置キても
右蓋の前向之置手前へ掛ケ 引出し 出シ掛ケ上ケ
掛ケ引出て取れきことて蓋通り 中ニて壱方の手下ケ
取掛ケ又一方の手引 置きし時の指ニ上ケ取出し

壱方の蓋の上口おさし近キ方へ置手元と蓋もちて去り
の指掛上ケ蓋大指ニてさし込置之 仕舞て時も置所
まして去

長緒三通り指様之事

一 緒ハ右ニ七三通り仕り 上ケ輪右輪 三節也 緒結ニ通り
一 上輪のさを廻ニて右へ入 左ハ指ニて中の輪
を手前へ引く 下ク上ケ節ニ掛ケ指掛ケ手前
江掛ケ置さるやうに右の手蓋もちて引也 又中の
右ニ打出して とりて引て上輪掛ケの
様の右の打廻り指掛ニして打掛ケ掛ケ
の中近キ之引 右の小指ニ掛ケ手輪の
方ニ指の小指ニ掛ケ 掛ケ持手廻し
指ニて一向ニ三つ指手前ハ小指ニて引掛

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』　請求記号 832-76
ガラス使用

一 御経ニ拝ヶ類之有之とその事之致も立中ニ持参
有之ト葉を必先ニ置候吉又ハ其日の事ニ手向申候
茶湯申ニト候の時も前日又は其日も立直し又配之
の為事々二種之候而も其外事々類無之事し
事也 濃薄茶二種もいたし候事
一 茶ヶ送りまし以葉ニ付て和の外の節坊の一種添て吉
之事出ス内ニて拝様ニ候 多ク其ニも茶ニ常
座し和以の外ハ拝様有之く候而も和ヶ
茶事の棗和ニ立て時も茶銭出置ニ拝様類之
銭匹茶後ニ立て後も和の茶碗席ニ下ニ置有之
拝拭して二ヶ様ニて匹茶之事ニての棗後ニ立
て拝様も同し拭之茶ヶ後拝様箸ニ候事

一 棗ハ棗袋之立派或ハ濃茶の棗入ニ用て吉也
袋ハ云も口ハやき紐ハ一重宛二つ棗の二つ切ニても
不苦
一 先ツ立て棗ハ袱紗の右ニ有て拭キ入組ミ吉袱紗之入
附誂てより切太るま之口傳
立ノ手前御理闇陰書
一 拝
住持して左ニて茶盌取右ニて立前の蓋を先ツ茶碗
置右手ニて毎手ニて茶杓に手前ニ川取抑して棗
盌の手前ニ置て右の手向ニ置拝ニ川出し毎手ニ
蓋を取り右ニて上ヶ取り左ニて置ヶ取袱紗の左側ニ
御向壁ニ置毎手ニて棗ハ取出袱紗のか角ニ置も
置又ハ袱紗の手前ニても拭葉ハ毎手ニて其中に置也
置袱紗の路ニ続の脇ニして壁ニ川出し毎手ニて

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76　ガラス使用

右の通ニ茶入置合之事

一右ニ而茶入の前ニ茶入ニ随ひ昔来通り様ニ而
見計ひ扱ひ候ひ而手前之組合茶釜も組合様
茶之事等茶之の事ニ而茶入常の通扱酒ニ而組合様
釜蓋ニ而置湯の下之ニ置茶碗取りニ而扱ひ候ニ
まて茶碗とり下ニ置取扱請様蓋置ニ而扱ひ
候の如くニ置て扱ひ候ニ而拝ニ而置左ニ而扱
ニ而如くニ湯柄杓湯を茶碗入もの左右
通ニて茶筅茶筅通以然し又湯
入茶釜ニ而き茶巾ニ而拭茶碗扱ひ拭茶碗茶巾通
より如く仕舞置茶巾ニ而後ニ而釜ニ拭へ
の上ニ置く

一寒気の砌も三度目の湯茶釜ニ而きんい以後の茶
碗入時ニ而もよし如くさきニ而茶碗扱如き
御向ニ茶碗の前ニのすニ依而茶筅の通ニ置
初の通ニ扱ひ毎度ニ而中の茶入ニ出茶ニ而置
如くの扱ニ而も見居も置左ニ而如くの茶入ニ如く源
茶の茶巾へ入左ニ而袋ニ而も扱ひ入如くの如く
扱ひつ以初の通ニして扱ニ而上ニ茶巾とれ
茶入とし口取揚ニ入又様△茶の事ニ随ひ
拂ふ和茶入組合よニ置左ニ而茶盆ニ前ニ出し
まつニ茶扱ニ而茶入入様ニ常の通り
扱様源出し置け如くし扱様少懐中
仕ニ源可出△茶巾扱ニし置と一置も一と
候釜蓋の上ニ置

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』　請求記号 832-76　ガラス使用

一時を移さず薬印所へ出頭して薬盆所
払渡仕候事

一薬文の碁和布の薬入来候節
先仕舞ふ事 ○拍当流を学ぶ者三不二能然共者を
元トの薬碗座より始ふとも久居よろし
ず出ル之

一客より行ふ薬望ふ時も
あらん段なりとも後難遠慮
薬湯ん止を客望ひて何
ふ論業ぞ不望い者

物薬部服ノ薬を荷ひ事ニ悪敷也
ず出ル之 然ル部服一ヶ荷ノ内薬盆壱
ニ成ル小頭つゝり

一盆方よりふの薬文出ル時
て蓋を返ひ事盆ヨ明立
ず出ル之

一ふくを
一客の薬文まで言て和の薬を言
て附薬入来候節ハ
諸を一人居後の薬箱の通ヨ

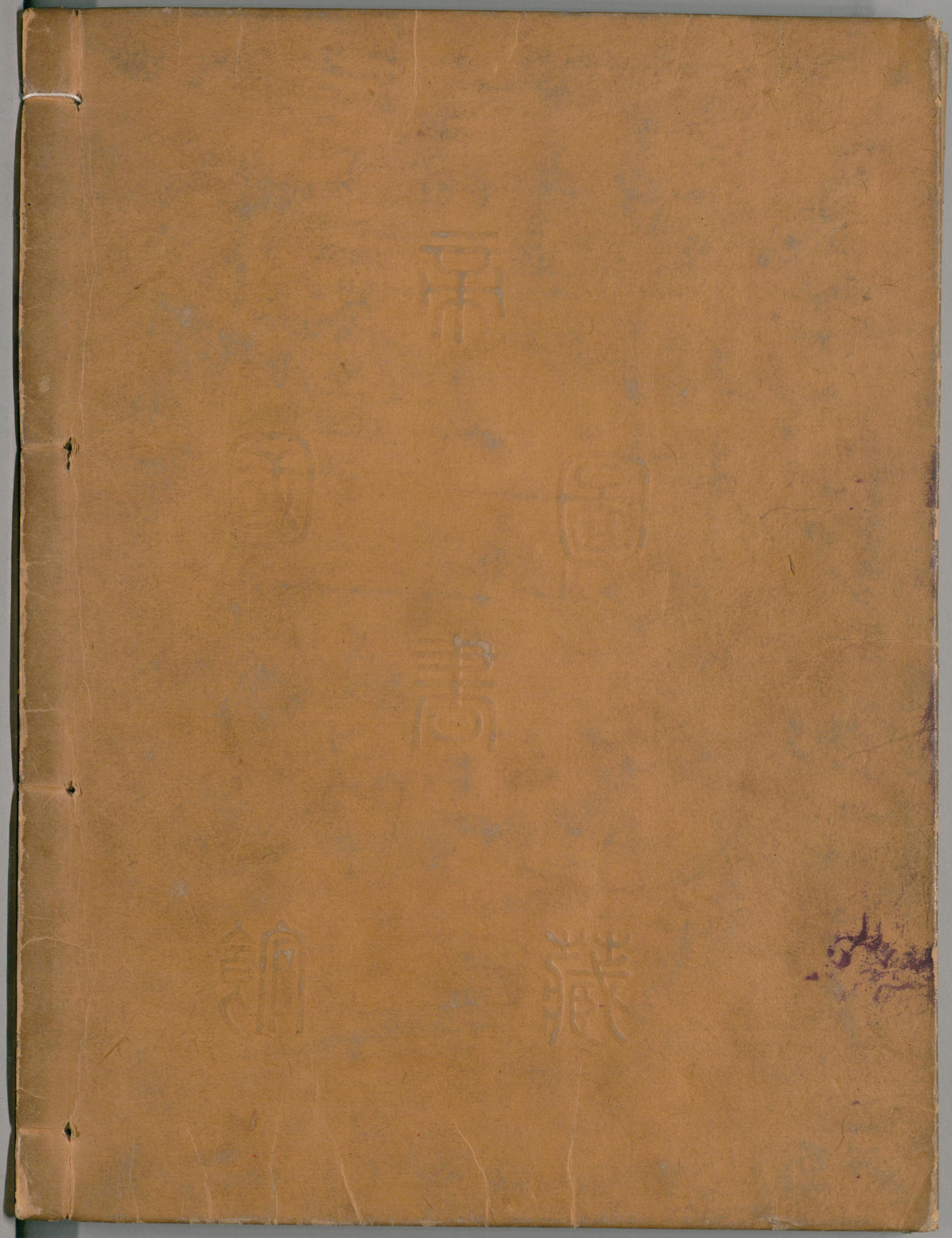
右此一卷閑秘之師之直傳也
海部丈悦卿司隊右衛門村瀬
殿内中山古悦加古平八山下六郎
左衛門等各會老師之お堂下
綴編之尚其術之
之後学之便
于时天明三卯年孟冬日書写之

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76　ガラス使用

832
76

国立国会図書館　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』 請求記号 832-76

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『鎮信派石州流六十ケ条』　請求記号 832-76

ガラス使用